

MONTHLY NEWS LETTER

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

2

February | 2024

高橋FPの社長が知りたいお金の話
大綱で読む2024年度の税制改正

達人に学ぶマネーの哲学
藤田 田

投資とビジネスに役立つ行動経済学入門
時間割引

2月の主要経済カレンダー
米FOMC、中国春節 ほか

マネークリップ
債券投資家の冬は、終わるのか?

12星座の秘密
みずがめ座



写真:アフロ

新しいNISAも追い風か

配当に着目した日本株投資

3月決算が多い日本企業。株式市場においても1-3月は配当が着目されやすくなる。今月は関連するトピックスや投資手法について見ていこう。

近年は欧米に合わせて、12月決算の企業も増えているが、3月決算が多い日本企業。国や地方公共団体、そして教育機関が3月末を年度の変わり目としていることや、税制改正の多くが4月1日に行われることが背景にある。国税庁の統計によると3月決算の法人は、全体のおよそ2割。1年が12カ月あることを考えると多いものの、意外と少なく感じるかもしれない。しかし、これを東証プライム上場企業で見ると、その比率は7割近くまで上昇する。「日本企業は3月決算が多い」というのは、特に投資家が強く持つイメージであると言えるだろう。

年初は好調な配当株、
新しいNISAの恩恵も?

実際に株価への影響も大きい。図表1は、予想配当利回りが上位の銘柄で構成される東証配当フォーカス100指数とTOPIXの相対パフォーマンスを示したもののだが、1-3月は底堅く推移していることが分かる。また、近年は減少傾向にあるものの日本株独特の仕組みである「株主優待」の権利日を迎える銘柄が多いことも要因だろう。一方で、配当が高いのは、何らかの理由で株価が低下した結果



であるとも考えられる。配当が高いからといってむやみに飛びつくのは禁物で、業績をしっかり見る必要があることは言うまでもないが、このような配当株の「季節性」は覚えておいて損はないだろう。

加えて、今年からは新しいNISAの恩恵が期待できるかもしれない。投資によって得られる利益が非課税になるNISAは、2024年から年間の投資枠がこれまでの最大120万円から最大360万円に大幅に増額。非課税となるのは株価の上昇などによって得られる売却益だけではなく、配当金も非課税となる。当たり外れのある株価の上昇よりも、確実に積み上がる配当で非課税のメリットを生かしたいと考える人も一定数はいるだろう。近年は米国株をはじめとする外国株式への投資が盛んだが、2024年は為替相場が円高方向に振れるという予想が多い。為替リスクを嫌って、国内に留まる資金も増えるのではないだろうか。好配当株に限らず、日本株市場全体への恩恵も期待される。

大型株を中心に投資する戦略も

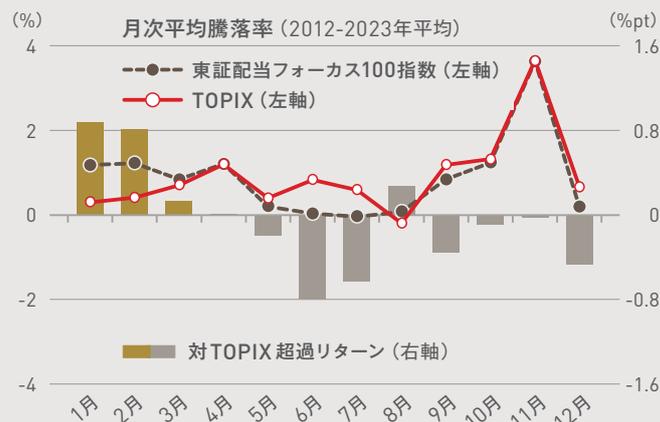
配当の魅力に加えて、ある程度信頼性の高い銘柄を選みたいという場合は、その対象を大型株に限定する方法もある。古くから米国で知られているのが「ダウの犬」という手法だ。NYダウの構成銘柄から、①年末時点の配当利回りが高い上位10銘柄を選定、②これらの銘柄に均等投資を行い、③再び年末に1回のみ同様の手法で銘柄を選定し、投資金額を調整する、というもの。ちなみに、10銘柄のうち株価の低い5銘柄をピックアップして投資する手法は、「ダウの子犬」と呼ばれる。これを日本株に応用して選定した銘柄を図表2に示した。元の指数はTOPIX構成銘柄の中から、時価総額や売買金額が大きく日本を代表する銘柄を選定したTOPIX Core30を用いている。みずほや三井住友などの銘柄については、配当の魅力に加えて、日本の金融政策が修正されることへの期待といった追い風も見込めそうだ。ちなみに2023年の同戦略は、日本版ダウの犬はTOPIX、TOPIX Core30のパフォーマンスを上回った。本家のダウの犬と併せて、活用を検討してみてもどうだろうか。もちろん、分散して投資を考える場合には、ETFや投資信託を活用するのもよいだろう。

*

配当よりも確実な利金に期待して、債券投資に目を向けるという考え方もあるかもしれない。この数年間のインフレの影響で世界的に金利は上昇しており、魅力的な水準となっている。ただし、日本の状況は少し異なる。世界的に見ても異例の低金利を継続しており、債券はNISA投資の対象外。この機会にインカム資産としての日本株の魅力に着目してはどうだろうか。



■ 図表1 1-3月は好配当利回り銘柄がアウトパフォーマンスしやすい傾向



(出所)QUICK Workstationのデータをもとに当社作成。月次平均騰落率は月末比較の前月比騰落率。東証配当フォーカス100指数はTOPIX1000および東証REIT指数の構成銘柄のうち時価総額および配当利回りに着目して選定された100銘柄(株式90銘柄、REIT10銘柄)を対象とする指数

■ 図表2 2024年の日本版「ダウの犬」銘柄 (★がダウの子犬)

コード	銘柄	株価(円)	2023年度予想	
			配当(円)	配当利回り
9434	ソフトバンク★	1,759.5	86.00	4.89%
4502	武田薬品	4,054.0	188.00	4.64%
4503	アステラス製薬★	1,686.0	70.00	4.15%
8411	みずほフィナンシャルグループ★	2,412.5	99.51	4.12%
7267	本田技研工業★	1,466.0	60.00	4.09%
8316	三井住友フィナンシャルグループ	6,880.0	270.00	3.92%
8766	東京海上ホールディングス	3,529.0	120.90	3.43%
9433	KDDI	4,486.0	142.22	3.17%
8031	三井物産	5,298.0	167.86	3.17%
7203	トヨタ自動車★	2,590.5	80.82	3.12%

注:2023年度1株配当予想は記念配当を含めたQUICKコンセンサスベース。ホンダの1株配当は株式分割考慮後ベース。配当利回りは売買手数料や税金は未考慮。予想配当額は今後増減し、無配になる可能性もあり、利回りは確定したものではありません。各種データは2023年12月29日時点。三菱UFJは除外。(出所)QUICK Workstationのデータをもとに当社作成

■ 図表3 2023年の日本版ダウの犬、パフォーマンス

2023年トータルリターン (2022年末~2023年12月29日)	
日本版ダウの犬	39.6%
日本版ダウの子犬	31.2%
TOPIX	28.2%
TOPIX Core30	33.1%

(出所)QUICKのデータをもとに当社作成